

# 顕彰館のご案内



本顕彰館は、昭和41年に史料館として開設されました。  
なお、この建物は昭和37年岡山県の三軒屋駐屯地から移設されたものです。

広島城に司令部を置く陸軍第5師団は創設以来、日清戦争、北清事変、日露戦争、第1次世界大戦、シベリア出兵、支那事変、大東亞戦争と、数々の作戦に参加して、威容を各国に知らしめ、常に日本軍の先陣となり、多くの戦績をあげました。

広島陸軍幼年学校は、東京・仙台・名古屋・大阪・熊本（往時の「鎮台」設置都市）と共に、明治30年に、現在の市立中央図書館付近に開校しました（旧校）。その後、昭和3年に、軍縮のため一旦廃校となりましたが、昭和11年に再興、鯉城の濠北（基町高校～KKR白鳥）に居を移しました（新校）。

この間、旧校（1期～29期）新校（40期～49期）合わせて、計3345名の将校生徒を育成しました。

# 陸上自衛隊海田市駐屯地 顕彰館



海田市駐屯地 司令職務室 広報班

〒736-8502

広島県安芸郡海田町寿町2番1号

TEL 082-822-3101(内2906)

# 陸軍第5師団に関する展示品



## 忠勇の扁額

第5師団司令部に掲げられていたもので、北清事変戦死病没者之魂に捧げられたものと推測されます。昭和20年8月の原爆投下によりほぼ無くなった第5師団に関する史料で、現存するものは極めて稀です。



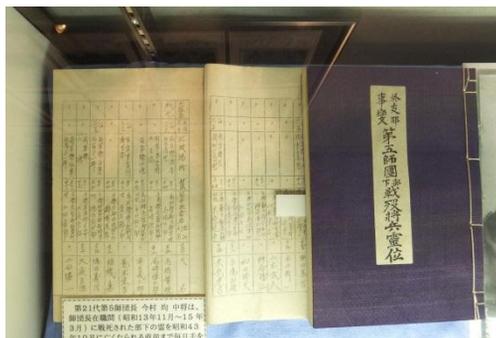
## 歩兵連隊第二大隊旗

陸軍は、旭日旗を軍旗として、大隊旗とともに布達し、連隊旗及び大隊旗は明治10年に公布されました。この大隊旗は終戦時に奉焼されずに残された、非常に珍しいものです。



## 山下中将与パーシバル中将の会見

第5師団が主力で作戦参加したマレー作戦のシンガポール陥落に際し、山下奉文司令官が連合軍司令官パーシバル中将に対し、「イエスかノーか」と無条件降伏を迫った歴史的写真を油絵にしたものです。



## 戦死将兵の霊位

第21代第5師団長 今村 均 中将は、師団長在職期間に戦死された部下の霊を、昭和43年10月に亡くなる直前まで、自宅庭に建てた三畳の謹慎部屋で毎日手を合わせて吊っておられた。今村大将自筆のもの。



## 棧少尉の遺書

昭和20年4月、陸軍特別攻撃に作戦参加した広島県出身の棧少尉の遺書で、両親への感謝、日本男児としての心意気、今後日本国の繁栄、両親の健やかなることの祈念が綺麗な楷書体で書かれています。

# 広島陸軍幼年学校に関する展示品



## 菊のご紋章

このご紋章は、昭和12年新築の広島陸軍幼年学校本館正面に掲げられていたもの。昭和20年6月学校本部とともに吉田町に疎開し、終戦により毛利墓所近くに埋められたが、後に発掘。平成10年顕彰館に展示される。幼年学校全6校中唯一残存のもの。



## 陸軍幼年学校生徒の制服

幼年学校の制服は優雅かつ独特のデザインで、肩章と、特に袖章の「赤い山型」は、他にはありません。明治30年制定の後、数回の変遷がありましたが、展示されている制服は、昭和7年以降の最後のものです。



## 西練兵場から見た広幼旧校

この絵は、日比野勇次郎・広幼旧校全期の図画教官の作。校舎は、昭和3年廃校後は、陸軍病院となったが、昭和11年度は、復活広幼40期が、また、それに続く8ヶ月は、復活仙幼41期が、一時的に使用した。

# 旧陸軍に関する展示品



## 村田式連発銃（明治22年製）

村田経芳（つねよし）少将によって考案された連発銃で、明治22年に正式採用された。日露戦争後に30式小銃が既に配備されており、余剰になった22年式は、中国に売り渡され、現存するものは極めて少ない。



## 千人針の胴巻き

結び白か黄色のさらし布に、千人の女性が赤糸で一針ずつ千個の縫い玉を作り、出征将兵の武運長久を祈ったものです。

日清・日露戦争ごろは、千人結びと言われていました。